

## 那賀川（静岡県）

Q1) 私の祖父の家が、静岡県賀茂郡松崎町にあり、小さい頃は夏休みの間中そこに続けたものだ。今でも休みになれば羽を伸ばしに行く。大きな道から少し離れていて、車2台がすれ違えない程の狭さの道をしばらく行くと祖父の家が見えてくる。都会の喧騒とはかけ離れていて、「癒し」という言葉がピッタリである。近くは畑だらけで海、山、川、と自然がたくさんある。私の実家は神奈川県にあり、身近な川といえば多摩川だが、私にとって馴染み深いのは多摩川ではなく、祖父の家から自転車であちよつと行ったところにある那賀川である。



Q2) 今回のこの課題をきっかけに、那賀川まで自転車を走らせてみた。そこでの思い出はもっぱら春や夏のもので、冬に、一人で那賀川に行くのは不思議な気分だった。まじまじと川を見てみて、改めてきれいだな、澄んでいるなど思った。曇っている時などは底が深いところは青々としていてとても冷たそう（実際夏でも寒い!）だが、日が出てくると水面がきらきら光って、底が浅いところは川底の石などが見える。私がよく遊んでいた場所は下流だが、濁りなどは一切ない。川端にごみ等はほとんど落ちていない。こうやってよく観察してみると、いかにこの那賀川がいかに大切にされているか分かった。上流に行くにつれ川幅が狭くなっていき、隣接している木々との距離も縮まっていき、山と一体化していく。

Q3) 思い返してみると、私は本当によく那賀川にお世話になったものだ。春にはお弁当を持って岸边に咲く満開の桜の下で昼食を食べ、昼寝をする。夏は数え切れないほどの思い出がある。小さい頃、家族と一緒に岸边でバーベキューをしたり、大きな水たまりのような所にいるおたまじゃくしを捕まえたり、色々な石を集めたりした。平らな石を見つけては、兄とどちらが多く水面の上を跳ねさせられるか競った。最高記録は7回だったと思う。浮き輪に浮かびながら川の流れに身を任せ200メートル程那賀川を下っていくのはとても気持ちがよい。一番の思い出は、小学校の高学年くらいから夏休みの日課になっていた朝の9時に近くの小学校のグラウンドに集合して近所の友達とサッカーで汗を流した後、那賀川へ直行し、高さ5メートルくらいの崖の上から飛び込む、ということだ。一瞬で暑さなど吹き飛ん

でしまう。ひとしきり涼んだ後、持参したお弁当を岸辺で食べ、暑くなってきたらまた飛び込む。夏とはいえ、5分も浸かっていたら体の芯から冷えてしまうくらい、那賀川の水は冷たい。そこで、大沢市民プール（無料）の登場である。飛び込み台となっていた崖から 50 メートル程の所に、そのプールはある。夏には水温が上昇し、まるで巨大なお風呂と化すそのプールで、水球、鬼ごっこ、宝探しなど様々な遊びをし、暑くなってきたら那賀川へ行く、ということを繰り返した。私は慣れてくると、崖から前転しながら飛び込んだりもした。中に後転しながら飛び込む友人もいたが、いつまでたっても飛び込むまでに長い時間を要し、目を思い切りつぶりながらでないと飛び込めないという友人もいた。こうして高い所から落ちるという行動に免疫ができたおかげで、バンジージャンプなどする時も先人を切っているようになり、周りから尊敬の眼差しで見られることが出来た、などということもあった。上記した様に、私がいつも遊んでいた場所は下流のほうだったため、川の中では小魚などしか目にしなかったが、那賀川の上流の方では、鮎釣りなどがある、と聞いたことがある。釣りには興味がない為足を運んだことはないが、この川のきれいさを見れば、鮎がいることに疑いを抱く理由はない。実際にインターネットで検索してみたところ、那賀川漁業協同組合がひっそりと釣り情報を掲載していた ([http://www.kiddy.co.jp/ayunip/sizuoka/naka\\_new.html](http://www.kiddy.co.jp/ayunip/sizuoka/naka_new.html))

Q4) 祖父に昔の那賀川の様子はどうであったか聞いてみたが、「今とほとんど変わらないよ。」とのことだった。それはそうだろうな、と思った。今よりもっときれいだった、なんてことは想像し難い。これ以上きれいになるのは不可能に近いと思う。ただ、昔は今ほど桜の数は多くなかったそう。それと、祖父の家から“飛び込み台”まで行くまでの間にある、今にも落ちそうなボロボロ橋が昔はちゃんと使用できていた、とも言っていた。とにかく、変わったのはそれくらいで、川の透明度は今も昔もほとんど変わりは無いようだ。本当に大切にされているのだな、と感じた。

Q5) 私の馴染み深い那賀川は、徳島県に流れる有名な那賀川とは違い、小さなものなので川について説明しているような Web-site は存在しない為、川の全長などといった詳しいことは分からなかった。しかし、岸辺に咲く桜や、テレビドラマのロケ地で使われたこと、について述べているサイトをいくつか発見した。

[http://www.town.matsuzaki.shizuoka.jp/FMPro?-db=m\\_faq\\_02.fp5&-lay=web&-format=p01f.html&-max=all&-sortfield=NO&NO=1807&-find](http://www.town.matsuzaki.shizuoka.jp/FMPro?-db=m_faq_02.fp5&-lay=web&-format=p01f.html&-max=all&-sortfield=NO&NO=1807&-find)

これは松崎町役場が那賀川堤の桜について説明しているもので、那賀川の河口から大沢温泉という冬など寒い時に私がよく利用する温泉がある所の 6 キロメートルの

間に約 1500 本の桜並木がつらなり、観光スポットとなっているといったことが記載されている。

次に

[http://www.atami-town.com/location/locadetail.php?dr\\_id=d200407\\_sekai-ai&lc\\_id=28](http://www.atami-town.com/location/locadetail.php?dr_id=d200407_sekai-ai&lc_id=28) というサイトを発見した。これはドラマ・映画のロケ地を紹介するサイトで、那賀川とその岸边が 2004 年 7 月～9 月の間に TBS 系列で放映された連続テレビドラマ「世界の中心で愛を叫ぶ」の撮影場所として使用されたことを記述している。

Q6) 最後に、私は、この那賀川がいつまでもこのままの、きれいな那賀川であってほしいと思う。「静岡 那賀川」と、インターネットで検索すると、ほとんどが観光のものである。多くの人に那賀川の素晴らしさを知ってもらうのは嬉しいが、正直、自分たちだけの那賀川であって欲しいという気持ちの方が強い。観光客の増加に伴い、岸边や川にごみが投げ捨てられるのではないか、バーベキューで使った鉄板などを川で洗うのではないか。観光客で賑わい、昼寝の邪魔をされるのではないか。川からプールまでの道をはだして、しかも水着で大学生が小走りしていたら笑われるのではないか、といったような様々な懸念がある。

現在のところ、那賀川が観光客によって汚された、という話は耳にしない。きっと観光業者の人が、マナーなどを徹底しているのだろう。これからもそれを続けて欲しい、というより、続けるにはほか無いだろう。そうしなければ、那賀川を愛する住民が怒り狂うであろうから。

那賀川を調査しているうちに 10 年ほど前、那賀川の河口に、東海地震等による津波災害から町の中心部を守るため、水門建設を計画していたが、自然が破壊されるからといった理由で、那賀川を愛する住民が反対したことがあった。という話を聞いた。それにより、水門建設は「延期」という形になったそうだ。帰って調べてみたら、小さくではあるが、Web-site にも掲載されていた

([http://www.pref.shizuoka.jp/governor/talk/penterpl/penterpl\\_00\\_2.htm](http://www.pref.shizuoka.jp/governor/talk/penterpl/penterpl_00_2.htm))

今回、那賀川を調査してみて、改めて、住民がどれほどこの川を大切にしているのか痛感した。そして、私自身、この川を愛しているし、将来子供が出来た時にも、同じように岸边で昼寝したり、崖から飛び込んで遊んだりして欲しいと思う。その為には今まで同様、地域に人たちの那賀川に対する愛情と、観光客のマナーというのが重要になってくるであろう。

那賀川よ、永遠に！！



「世界の中心で愛を叫ぶ」の中のあるシーンで使用された場所。



私がよく昼寝をする場所。



1500本の桜並木が連なる通り。  
この写真の左側にはわりと大きな道路もあり、カメラを持った観光客がよくいる。